

2017年3月期第2四半期決算説明会 2016.11.21

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社



NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

本日のアジェンダ

1. 2017年3月期第2四半期決算サマリー
執行役員経理部長 小林 伸互
2. 足元の状況と今後の取り組み
代表取締役社長 木村 始

〈参考〉主要データ（連結ベース）

2017年3月期第2四半期決算のポイント

- ① 2017年3月期上期は一般材を中心に需要の盛り上がりには欠け、原料価格の低下に伴う単価下落もあり、減収となったものの黒字を確保。
- ② ただし、高機能材事業部門は高機能材、高付加価値材共に需要は堅調で、特に高機能材ではシーズヒーター用材や環境対策関連等の需要が堅調、高付加価値材は快削鋼、耐熱鋼を中心に前年同期比約20%の増加となった。
- ③ 上期のステンレス一般材販売価格はLMEニッケル価格の低迷に伴い弱含みで推移、足元ではLMEニッケル相場は上昇に転じており、販売価格値上げ効果は下期以降に本格化。
- ④ 「中期経営計画2014」に基づく高機能材事業強化等の諸施策を着実に実行して黒字を継続し、配当継続へ向けて収益確保に努める。

損益計算書 連結 概要

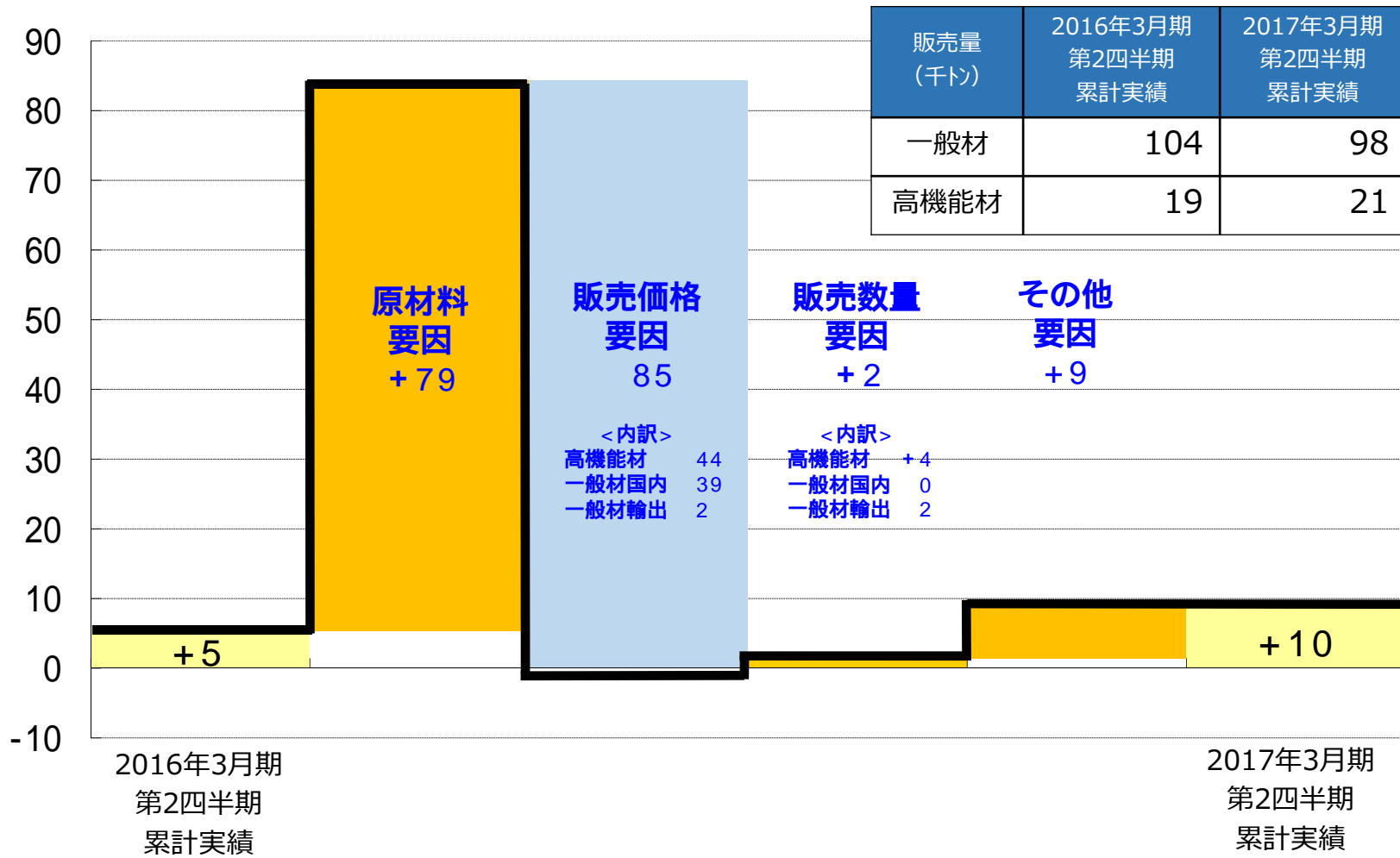
	2016年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	2017年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	前年同期比 (億円)	前年同期比 (%)
売上高	626	535	▲91	▲14.5
営業利益	5	10	4	78.8
経常利益	▲1	3	5	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲4	3	7	—

高機能材部門 売上高比率 (%)	33.4	33.7
---------------------	------	------

(ご参考) ニッケルLME期中平均価格：2016年3月期上期5.34US\$/Lb、2017年3月期上期4.33US\$/Lb。

期中平均為替レート：2016年3月期上期121.80円/\$、2017年3月期上期105.31円/\$。

営業利益変動の要因分析（前年度比較：億円）



貸借対照表 連結 概要

	2016年3月末 (億円)	2016年9月末 (億円)	前期末比 (億円)	2016年3月末 構成比 (%)	2016年9月末 構成比 (%)
現金・預金	49	47	▲2	3.6	3.6
売掛債権	202	192	▲9	15.0	14.6
たな卸資産	285	266	▲18	21.1	20.3
固定資産	809	804	▲4	50.0	61.2
その他資産	4	3	▲1	0.3	0.2
【資産合計】	1,348	1,312	▲36	100.0	100.0
借入金及び社債	585	567	▲17	43.4	58.6
その他負債	422	401	▲21	31.3	41.4
【負債計】	1,006	968	▲38	74.7	73.8
【純資産計】	341	343	2	25.3	26.2
自己資本比率 (%)	25.3	26.2			

キャッシュフロー計算書 連結 概要

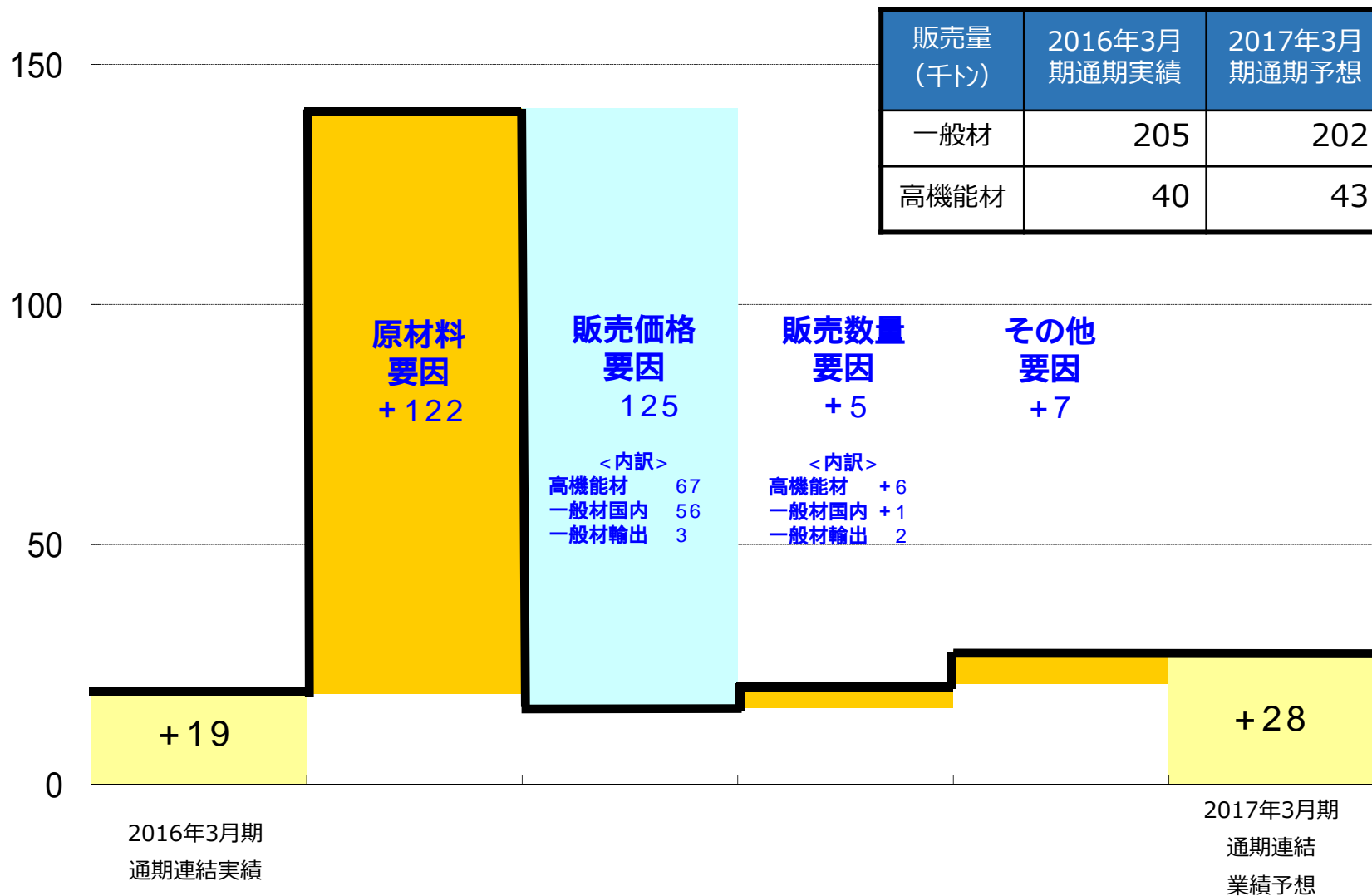
	2016年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	2017年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	前年比 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	29	37	8
税金等調整当期純利益	▲3	3	6
減価償却費	18	19	1
売上債権の増減額 (△は増加)	7	9	2
たな卸資産の増減額 (△は増加)	23	18	▲5
仕入債務の増減額 (△は減少)	▲16	▲13	3
法人税等の支払額	0	▲1	▲1
その他	1	2	1
投資活動によるキャッシュフロー	▲15	▲16	▲2
有形・無形固定資産の取得による支出	▲15	▲16	▲1
その他	1	0	▲1
フリー・キャッシュフロー	14	21	7
財務活動によるキャッシュフロー	▲6	▲22	▲16
借入金及び社債の純増減額 (△は減少)	▲7	▲17	▲10
その他	2	▲5	▲7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8	▲2	▲10

2017年3月期連結業績予想（前年度比較：億円）

	2016年3月期	2017年3月期		
	通期連結実績 (億円)	【10/31公表】 通期連結 業績予想 (億円)	前年度比 (億円)	前年度比 (%)
売上高	1,210	1,100	▲110	▲9.1
営業利益	19	28	9	48.0
経常利益	5	14	9	167.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	8	8	▲0	▲2.6

ニッケルLME下期想定平均価格：4.60US\$/Lb、下期想定平均為替レート：102.00円/\$。

営業利益変動の要因分析（前年度比較：億円）



本日のアジェンダ

1. 2017年3月期第2四半期決算サマリー
執行役員経理部長 小林 伸互
2. 足元の状況と今後の取り組み
代表取締役社長 木村 始

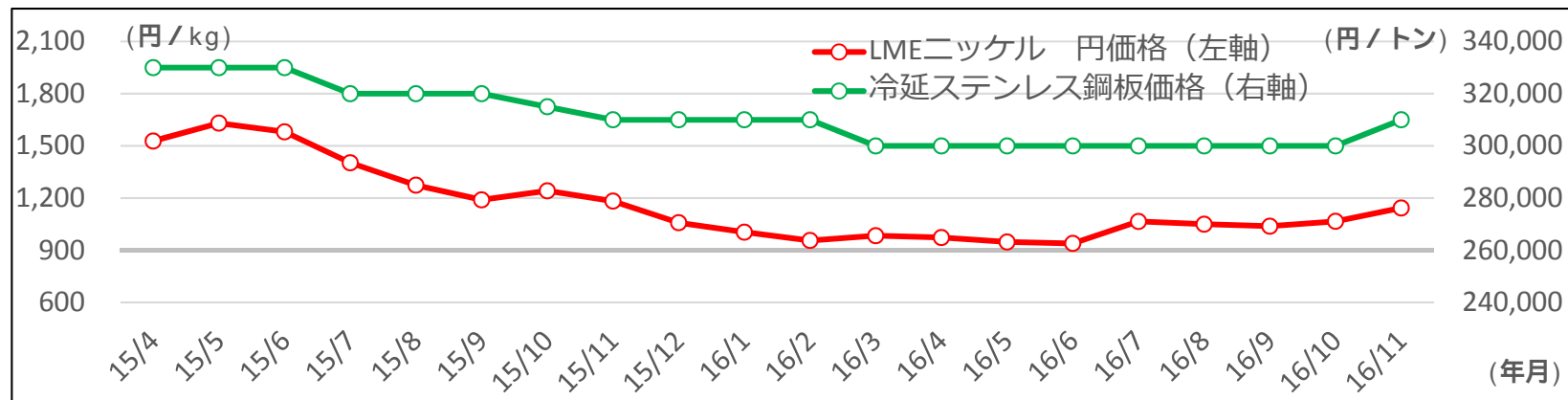
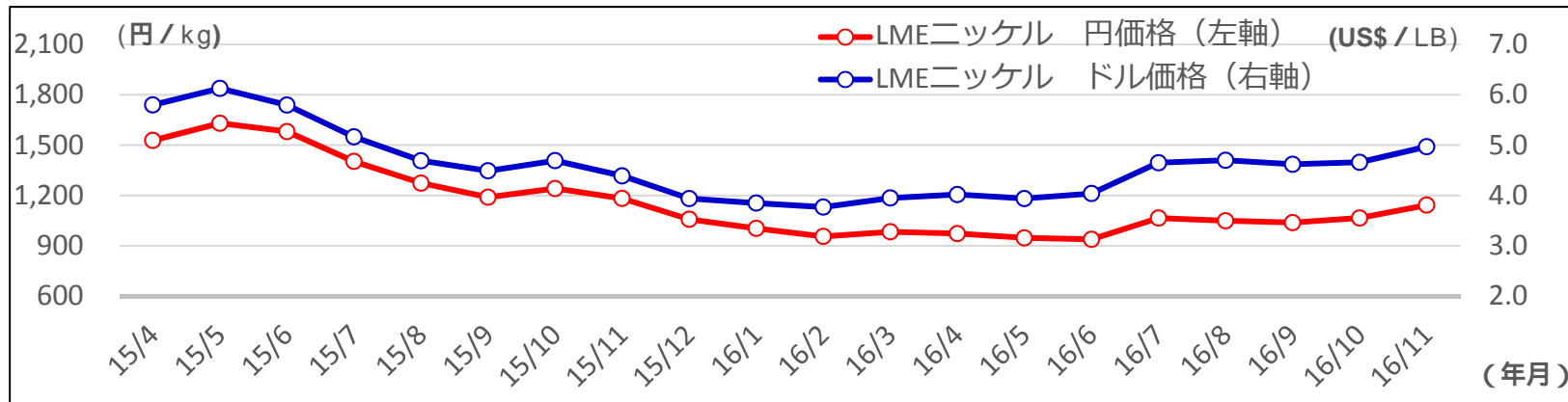
〈参考〉主要データ（連結ベース）

ステンレス一般材の状況

	今年度上期	下期想定
国内	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国内市場はLMEニッケル価格低迷を背景に1Qの荷動きが低調、2Qから回復 ➤ 販売価格は弱含みに推移したものの、2Q末から原材料のコストアップ分の値上げを開始 ➤ 輸入材の流入量は変わらず、一定量に留まる 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 足元の受注は堅調、下期は公共工事需要等多く、数量は堅調に推移すると想定 ➤ 販売価格は上期から引き続き原材料価格上昇に伴うコストアップ分の値上げに取り組む
海外	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 販売数量は1Q、2Q共に去年同期比で減少 ➤ 中国・韓国・台湾メーカーの過当競争でドル価格の市況は依然として厳しい状況 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 需給バランス改善は当面見込めず、厳しい市場環境のままと想定 ➤ 為替、原料価格を見ながらの慎重な営業活動を続ける

ニッケル・ステンレス価格の推移（月次）

- ▶ LMEニッケル価格は16年1Qで底を打ち、2Qから上昇
- ▶ 足元は\$5 / lbを越えるレベルで推移

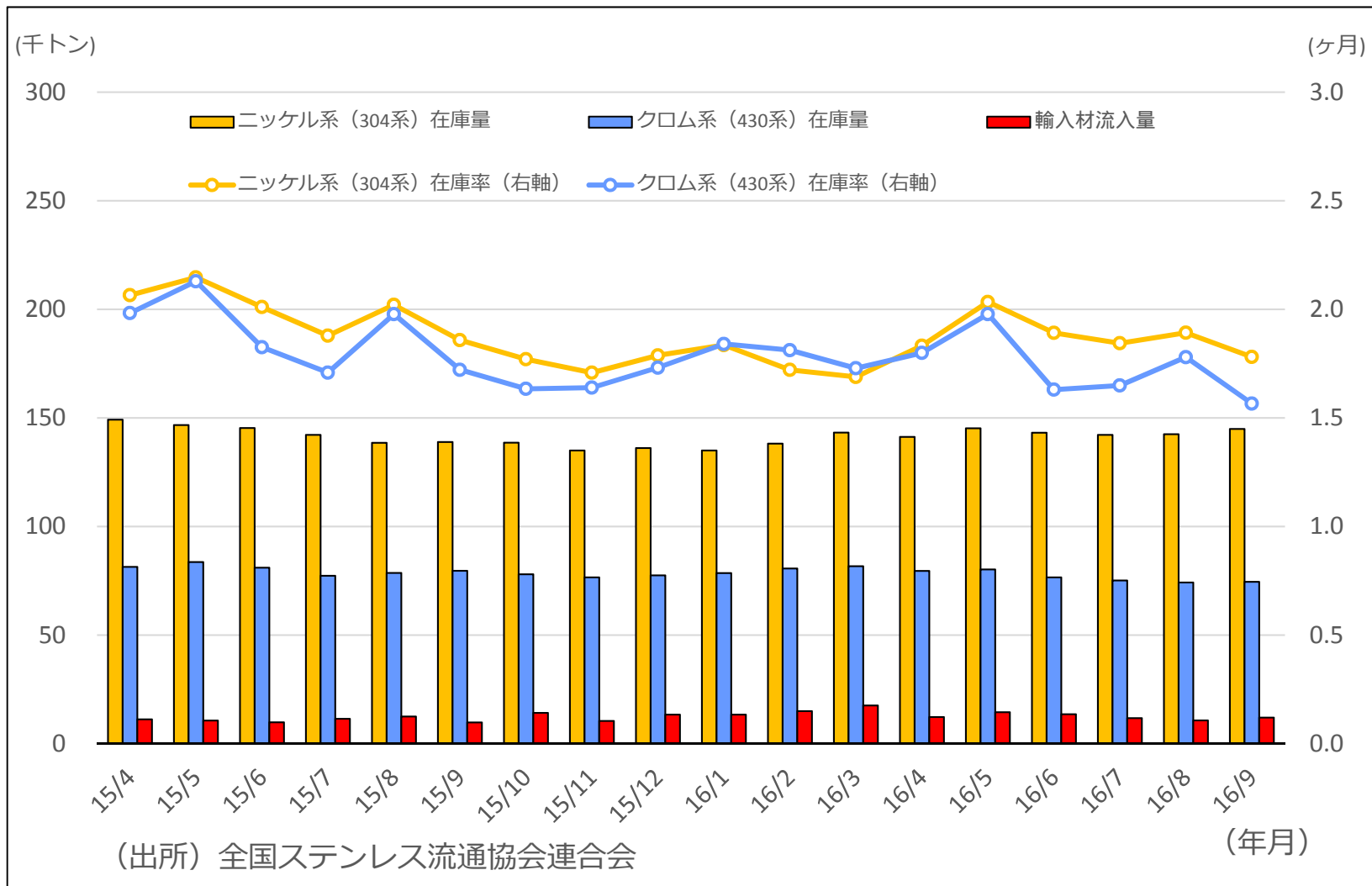


(注1) 冷延ステンレス鋼板：東京SUS304種18-8、2.0ミリ。

(注2) 2016年11月価格は冷延ステンレス鋼板は直近、ニッケル価格は11/11までの平均。

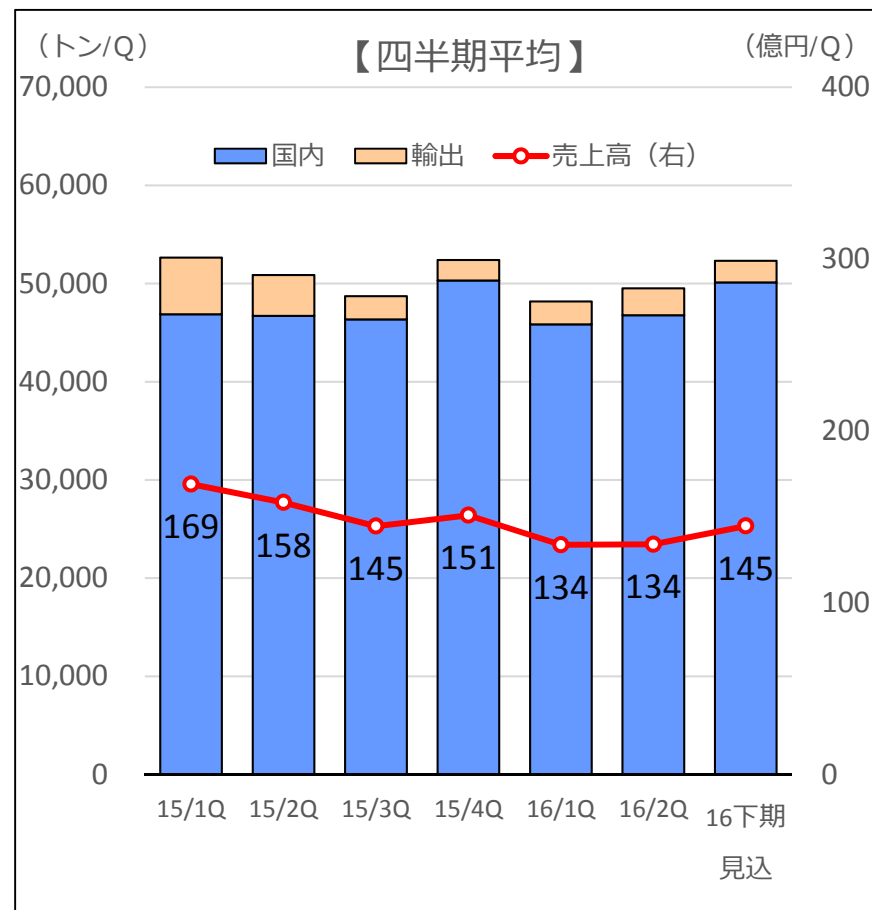
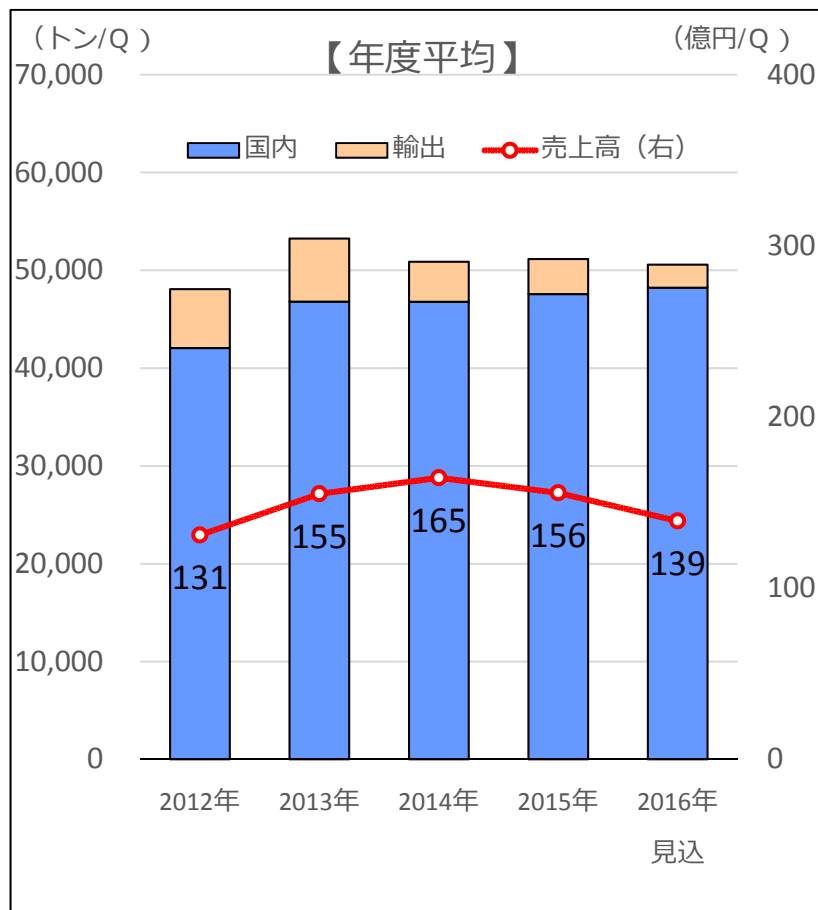
(出所) 鉄鋼新聞。

ステンレス（ニッケル系・クロム系）在庫の推移



販売量及び売上高 ステンレス一般材

▶海外市況価格が低迷、前年度対比で輸出の販売数量減少

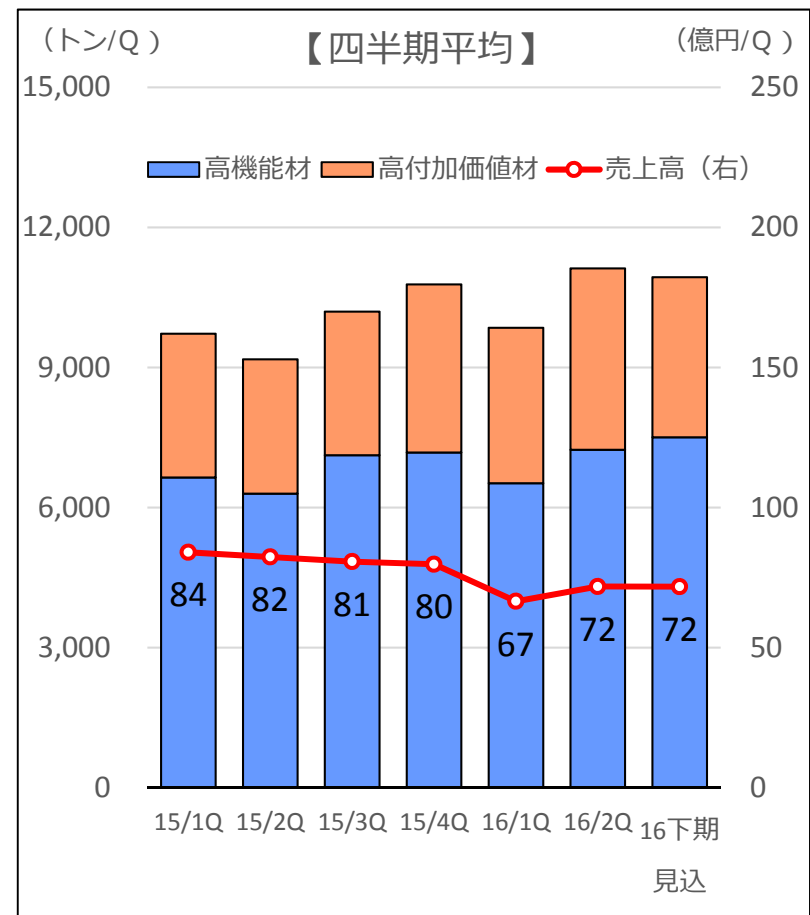
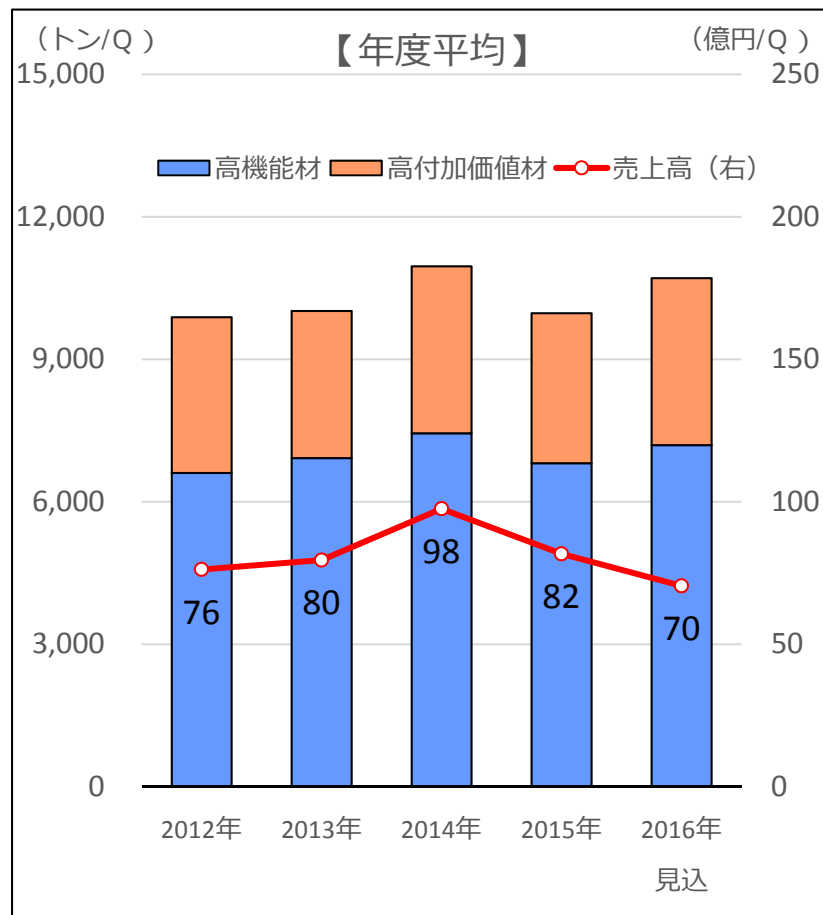


高機能材部門の状況

	今年度上期	下期想定
国内	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高機能材は環境関連投資や自動車、プラント関連需要が堅調 ➤ 高付加価値材は耐熱鋼やチエッカープレート等販売が伸長 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高機能材部門需要は、国内産業動向を映じて比較的堅調な推移を期待
海外	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 石油・ガス関連プロジェクトの停滞続く ➤ 米国の住宅市場や家電市場が堅調、シーズヒーター・バイメタル等の需要が高水準 ➤ 有機EL関連需要の拡大 ➤ 環境対策関連需要は堅調を維持 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 石油・ガス関連投資の停滞継続 ➤ 中国経済は足踏み状態で需要拡大は見込めないものの、環境対策関連等、一部需要は堅調に推移すると想定 ➤ シーズヒーターやバイメタルの民間需要は堅調維持を見込む ➤ 有機EL関連需要のさらなる拡大を期待

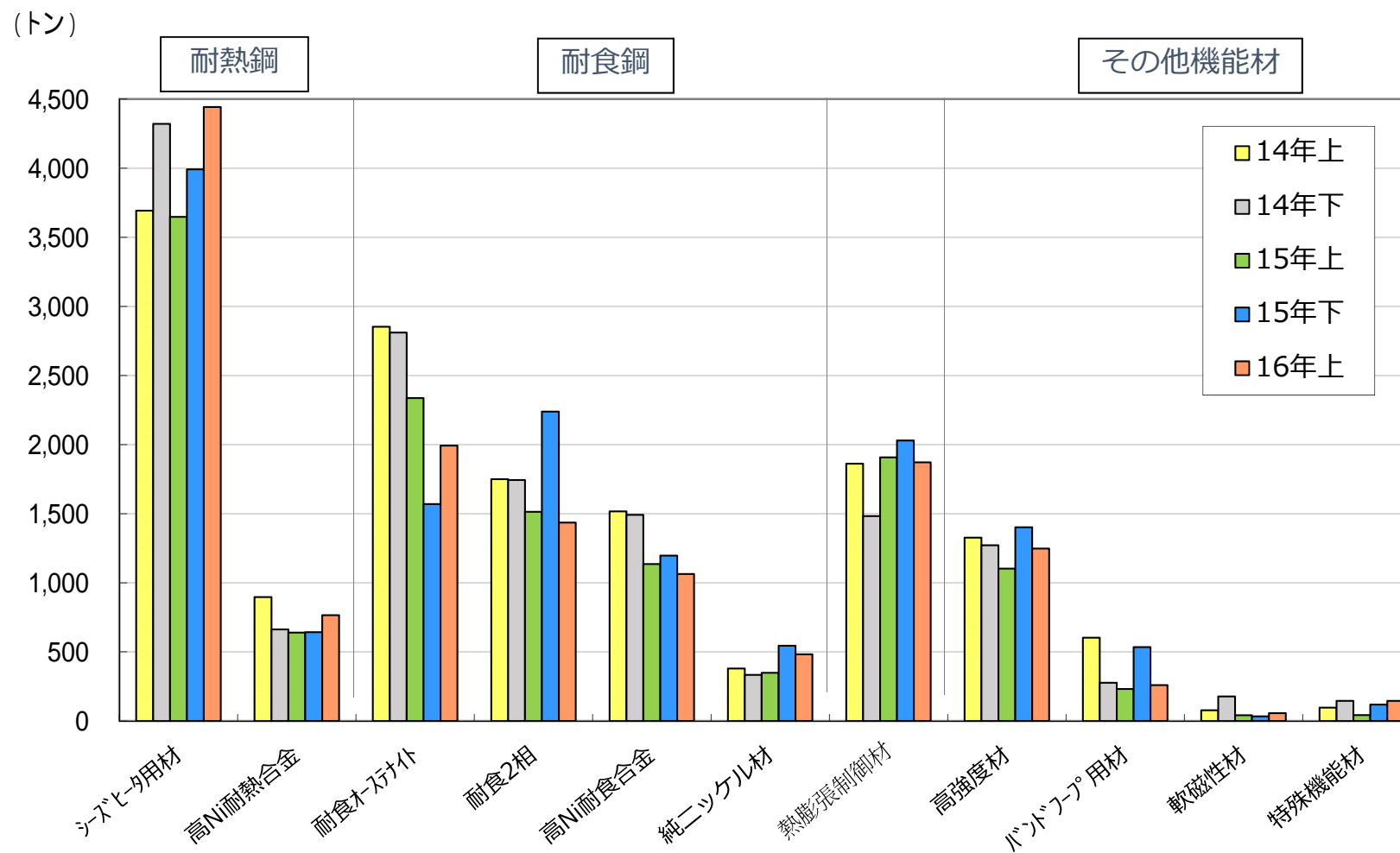
販売量及び売上高 高機能材部門合計

▶ 16年2Qでの需要回復、下期堅調維持の見込み



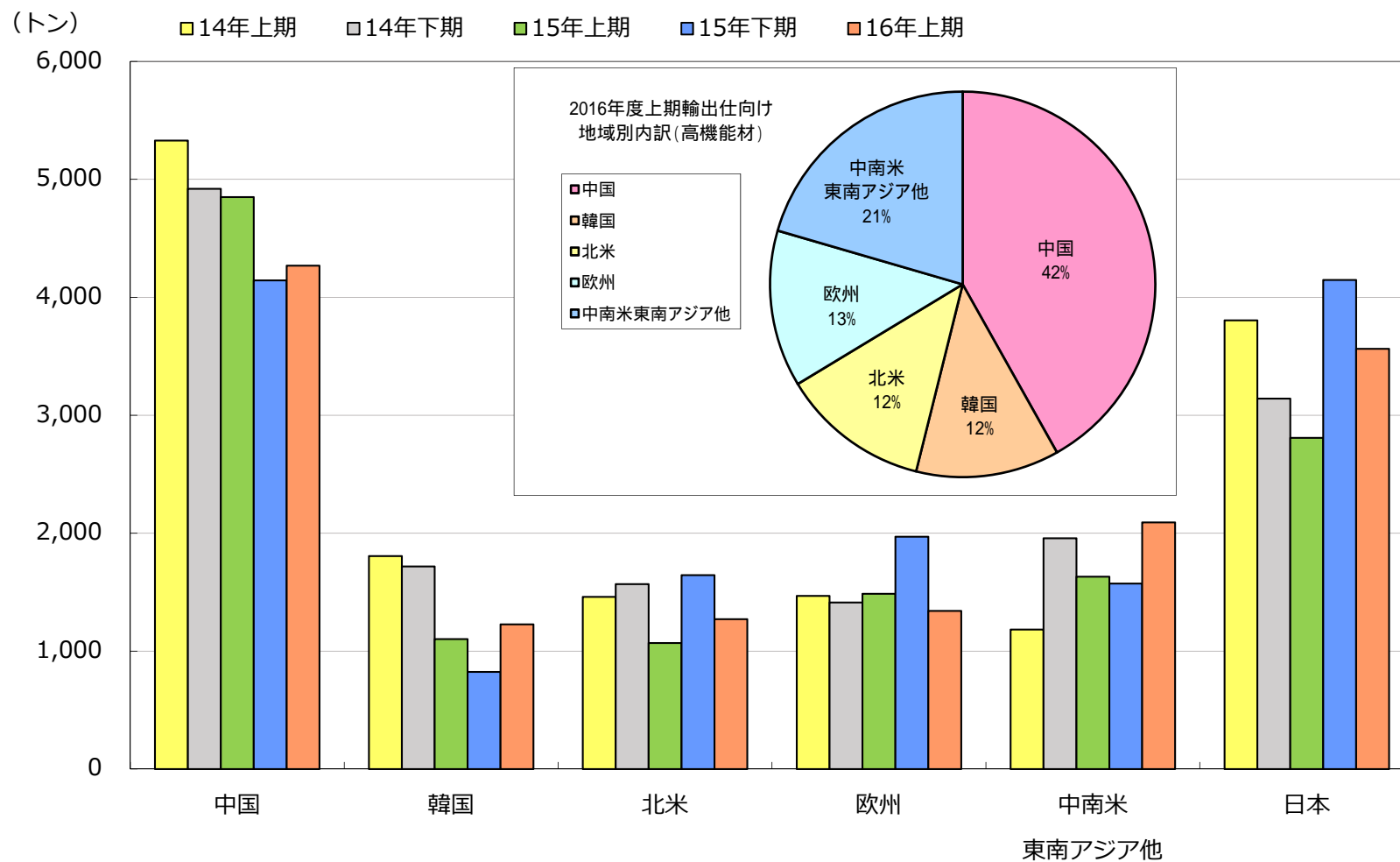
高機能材の分類別の推移（販売量）

▶ シーズヒーター用材が好調



高機能材の仕向け地別推移（販売量）

▶ 中国・韓国は本格的な需要回復に至らず、中南米では米国向け輸出産業需要が堅調



製品紹介

水素ステーション用コンパクト熱交換器



近年、クリーンエネルギーの水素で走る燃料電池自動車に注目が集まっており、燃料である水素を供給する水素ステーションの整備も進められています。

水素ステーションの主要機器である水素圧縮機やディスペンサー内で水素を目的の温度に冷却するために熱交換器が使用されております。また、水素ステーションがガソリンスタンドに併設されることから熱交換器には小型化も必要とされてきました。本製品は当社のSUS316L改良材を素材とし株式会社神戸製鋼所様にて製造したものであり、コンパクト性にも優れるために採用実績も多く、今後も需要拡大が見込まれるものです。

【使用鋼種】 SUS316L改良材

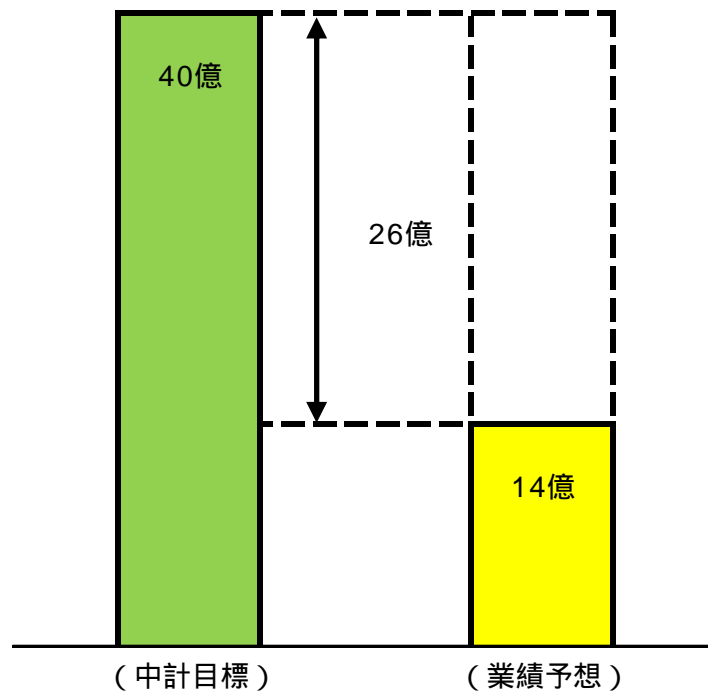
【特徴】 水素脆性（金属内に水素が侵入し脆くなる現象）に耐性

配当について

- 2017年3月期 中間配当
誠に遺憾ながら見送ることとさせていただきます。
- 2017年3月期 期末配当
現時点では未定

中計最終年度進捗状況

【2017年度3月期 中計目標対比経常利益比較】



(差異要因)

- ・数量差 ▲30億
- ・在庫評価損 ▲18億
- ・コストダウン他 +22億

[本年度目標]

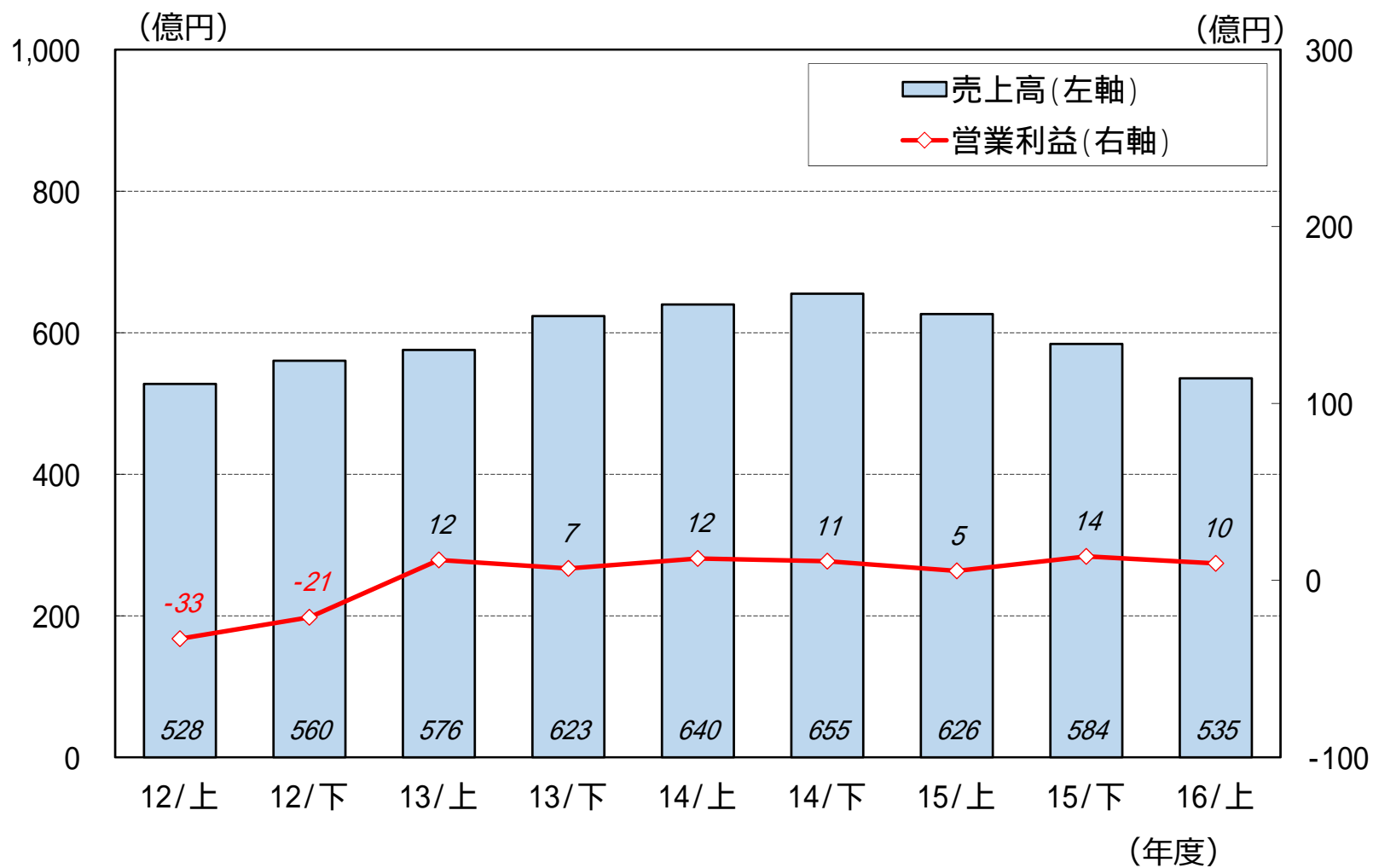
四期連続黒字を達成し、配当継続を目指す

本日のアジェンダ

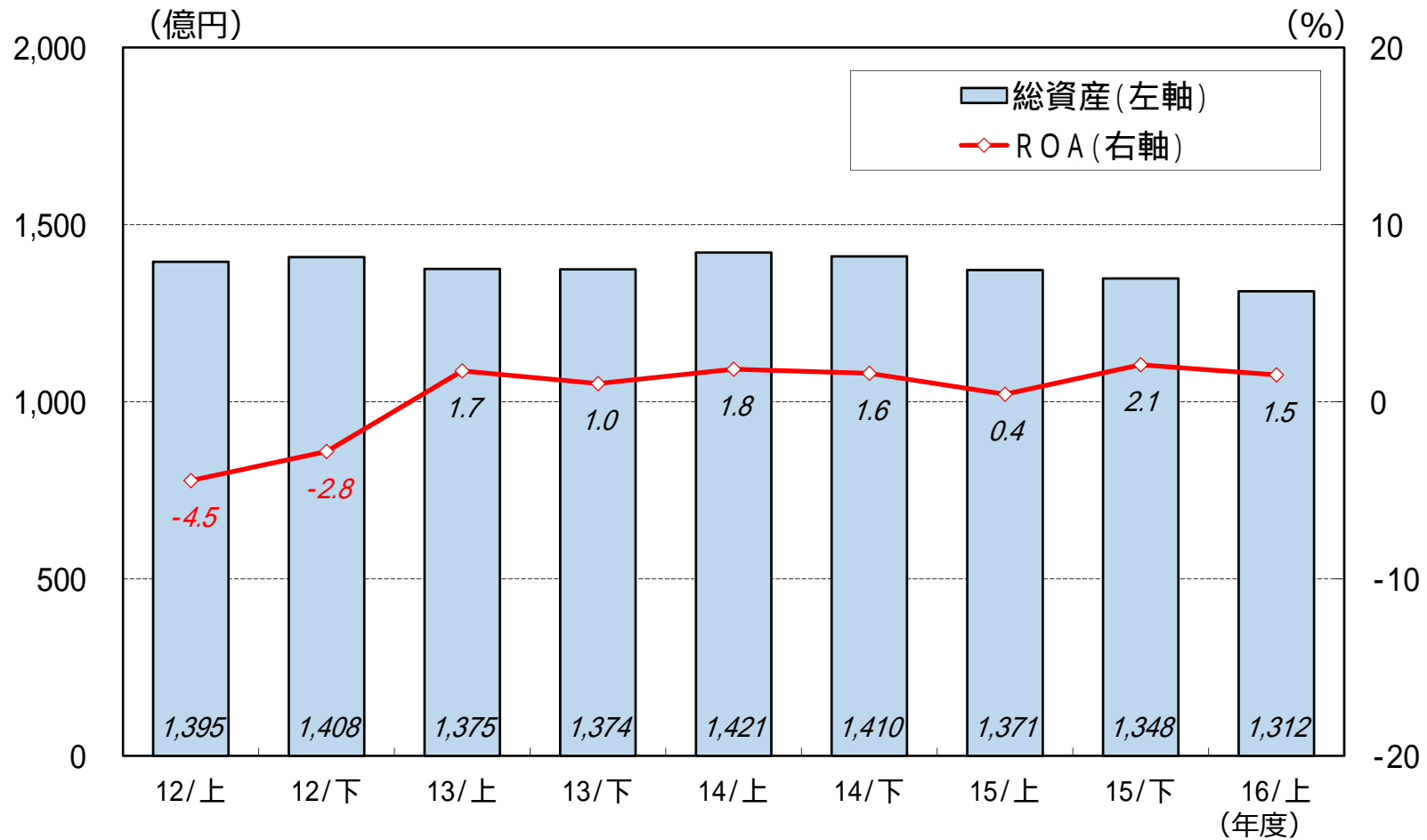
1. 2017年3月期第2四半期決算サマリー
執行役員経理部長 小林 伸互
2. 足元の状況と今後の取り組み
代表取締役社長 木村 始

〈参考〉主要データ（連結ベース）

売上高・営業利益

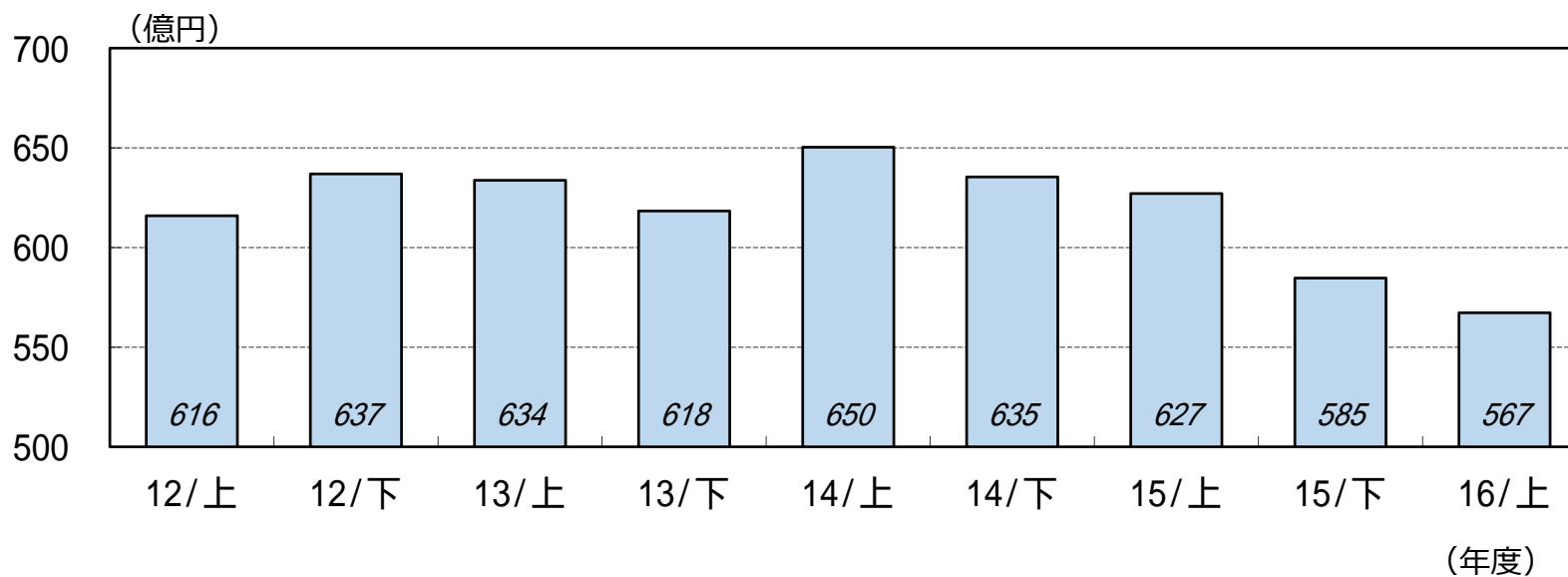
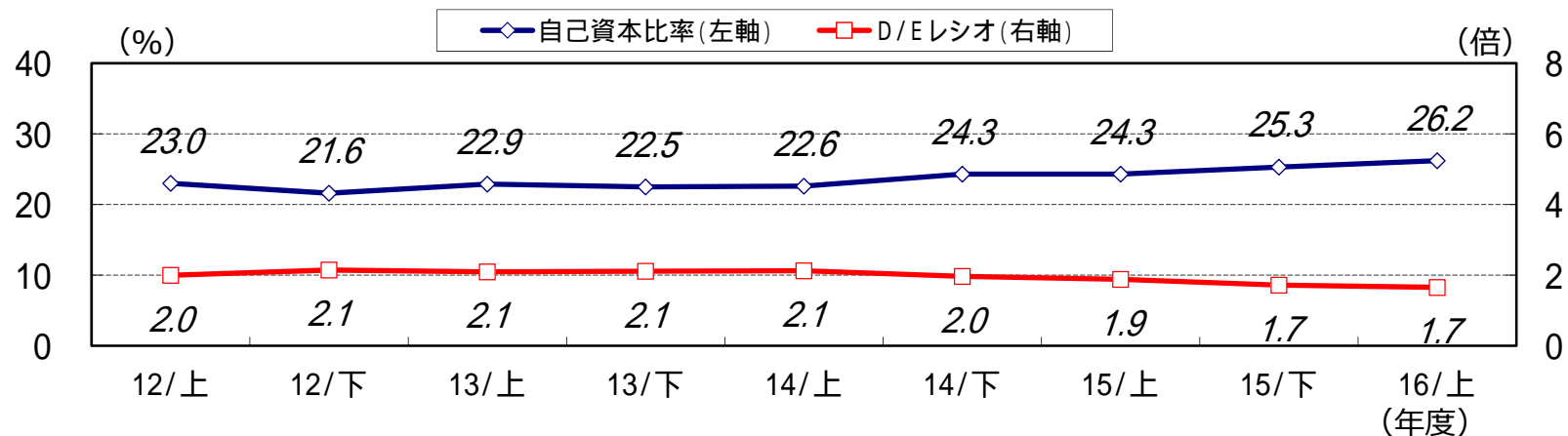


総資産額・ROA

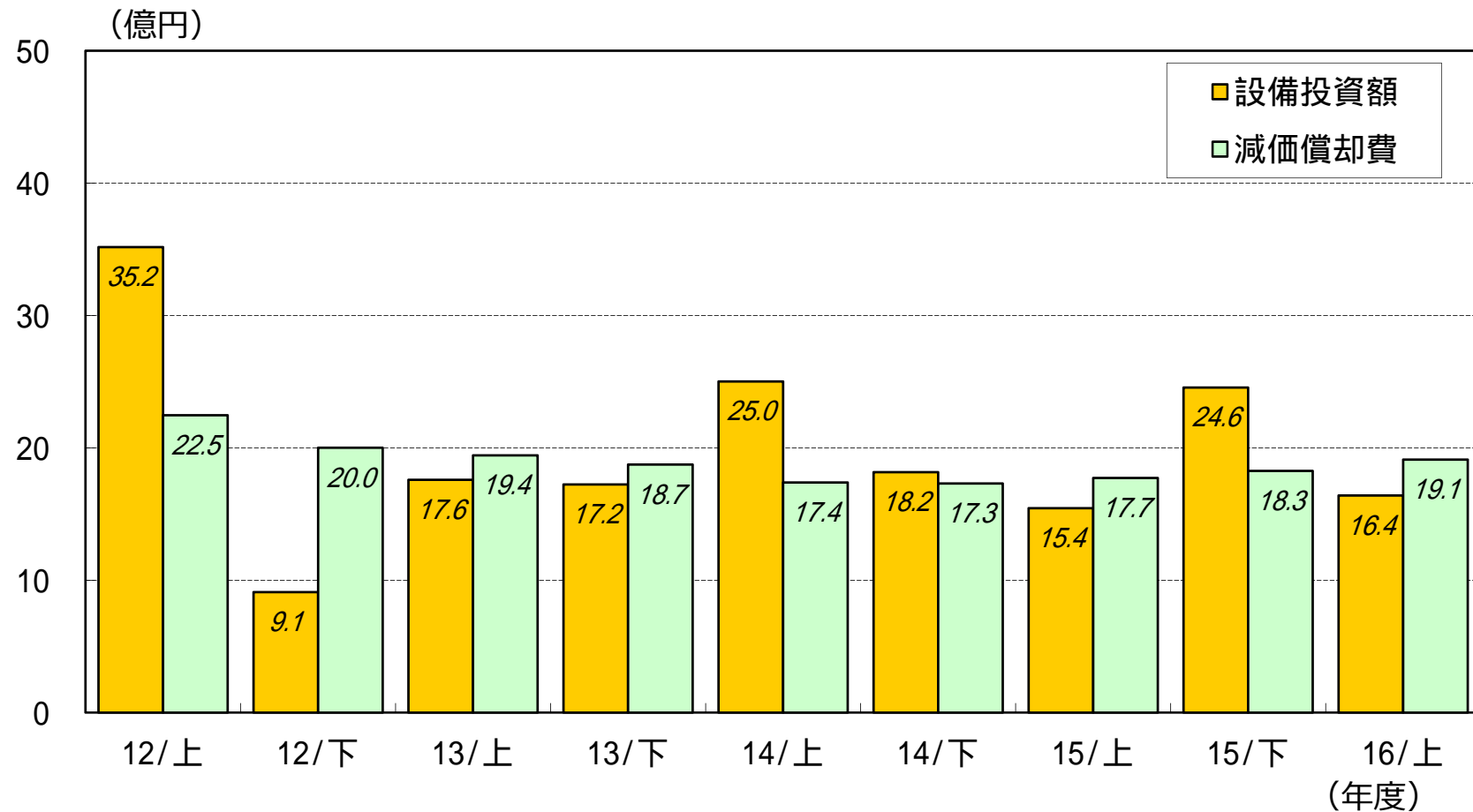


(注) ROAは (営業利益 + 受取利息・受取配当金) / 期初・期末平均総資産

有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ



設備投資（連結ベース）



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ
～ そして競争力No.1の高機能材メーカーへ～

日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

T e l . 03-3273-3613 /

E-M A I L . irjimu@nyk.jp